

シラス漁へのフグ稚魚混入防止対策研究

(予算区分 県単 研究期間 平成 27~29 年度)

担当 : 資源海洋科 池田卓摩

【研究の背景とねらい】

- 平成 26 年にシラス加工品にフグの稚魚が混入する事例が全国の多くの地域で発生し、全国有数のシラス産地である本県漁業者、加工業者に大きな影響を与えました。
- サイズが数十ミリ程度のフグ稚魚は、外見からの種査定は困難であることや、フグ稚魚の多くは有用種ではないため、分布や生態に関する知見は少なく、混入防止の対策は受身にならざるを得ません。
- 本研究では、フグ稚魚の種類や混入時期、場所等を調査することで、発生時期等を明らかにします。これにより、加工の際に異物除去の重点時期を設定する等の積極的な対策が可能になり、フグ稚魚混入時の選別漏れのリスクが軽減します。

【研究成果】

- シラス水揚げ物に混入したフグ稚魚(全長 30mm 以下)のうち 97.8%がサバフグ属でした。混入時期は規則性がなく、高密度混入日(20 尾/シラス 1 トン)は年や場所で異なっていました。20mm 以下の小型個体が少ないことから、沿岸域のシラス漁場付近で産卵・孵化したものではなく、沖合域から流入していると考えられました。
- フグ稚魚を沖合域からシラス漁場へと運ぶ流れとして、暖水波及(黒潮系の暖水が沿岸に向けて流入する現象)に注目しました。暖水波及は関東・東海海況速報から把握し(図 1)、混入密度との相関を調べました(図 2)。暖水波及確認後 1~7 日後に高密度混入日(20 尾/シラス 1 トン)が出現する傾向がありました。

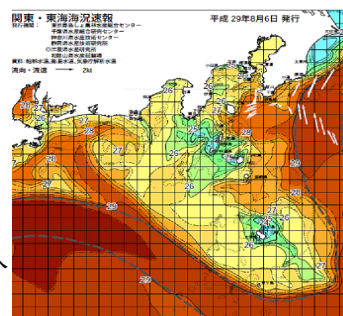


図 1 関東・東海海況速報

【研究成果の普及方法】

- 研究成果の活用と水産技術研究所 HP で公開する関東・東海海況速報から暖水波及を読み取る方法を、覚えてもらうための研修会を関係者向けに行います。
- 「しずおかの海と資源を守るための基盤的研究」の中で、引き続きデータの蓄積や解析を進めて予測精度の向上をはかります。

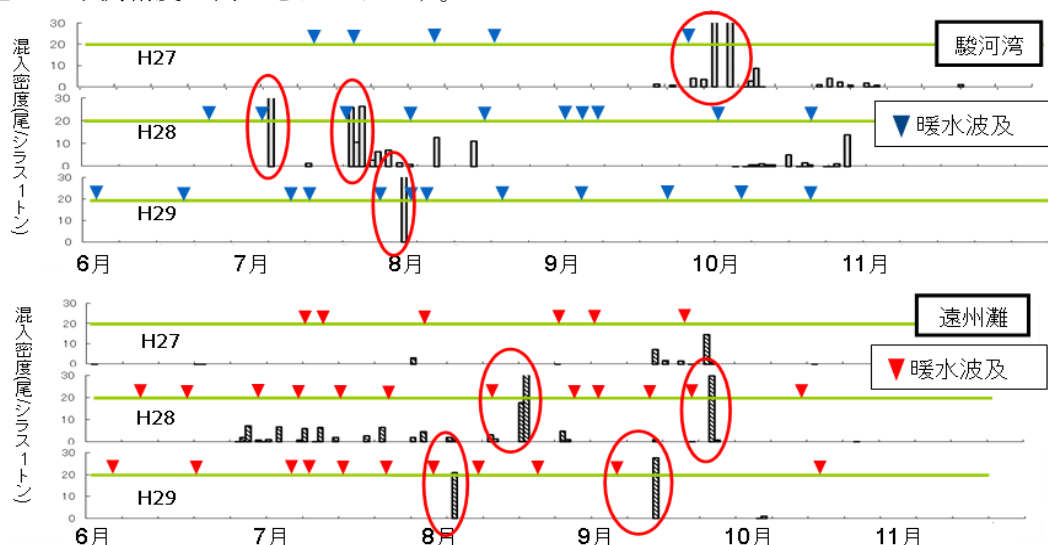


図 2 暖水波及確認日と混入密度の関係

(作成 平成 30 年 3 月)